

～こども保険の保有契約件数と連動した寄付を通じ、少子化対策を支援～
「Hello! Baby 奨学金プログラム」寄付金の贈呈について

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 松尾 憲治）は、社会貢献活動の一環として、こども保険の年度末保有契約件数に応じて、当社経費のなかから毎年寄付する「Hello! Baby 奨学金プログラム」を行なっています。

この度、2009年度末のこども保険の保有契約件数が確定したことをうけて、本日、第一回目の寄付金480万円を社団法人日本助産師会へ贈呈しました（贈呈の様様については別紙をご覧ください）。

当社は、少子化がいつそう進展するなか、産科医療スタッフの確保が大きな課題となっている状況を鑑み、社団法人日本助産師会が行なう「助産師をめざす人のための奨学金制度」の趣旨に賛同し、本プログラムを開始しました。

今後とも、本業を通じたCSRへの取り組みとして、本プログラムにより、ひとりでも多くの助産師が誕生し、より安心して安全なお産ができる環境づくりに貢献したいと考えています。

1. 寄付先

社団法人日本助産師会（別紙「ご参考1」参照）

2. 寄付の内容

「助産師をめざす人のための奨学金制度」への支援

3. 寄付の目的

国や地方自治体等において、「仕事と家庭の両立支援」「子育てにおける経済的負担の軽減」など、さまざまな少子化対策が進められていますが、「妊娠・出産の支援」に対する期待が高まっています（別紙「ご参考2」参照）。

産婦人科医・産科医が年々減少しているなか、助産師の絶対数の不足も課題となっています。助産師は、妊産婦の不安や恐怖感を和らげ、安心して分娩できるように、保健指導や分娩時の介助、育児相談など、大きな役割を果たしています。

当社は、奨学金支援という形で、助産師不足の解消に貢献し、妊婦の方がどこにいてもより安心して安全なお産ができる環境づくりに寄与したいと考えています。

4. 寄付金額

480万円（助産師学生16人分の奨学金に充当）

※こども保険の前年度末保有契約件数3万件につき、学生ひとり分の奨学金30万円を寄付（2009年度末のこども保険保有件数は499,954件）

※現在、販売中の「こどものほけん」、および過去に販売した全ての「こども保険」のうち、各年度末時点で有効中の契約が対象

2010年6月11日 寄付金贈呈の様様



社団法人日本助産師会会長 加藤さまへの目録贈呈

(ご参考1) 社団法人日本助産師会について

「母子保健推進のため、全国の助産師の連携を図り、助産師業務の水準を維持し、その改善・向上に努める」ことを目的に、1955年創立した団体です。(http://www.midwife.or.jp/)

(ご参考2) 政府が行なう少子化対策で特に期待する主な政策 (複数回答)

(単位: %)

政策	調査時の例示	今回調査 2009年	前回調査 2004年	差異 (ポイント)
仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しの促進	両立への企業の自主的取組みの促進、育児休業制度等の取組みの推進、出産後も安心して働き続けられる職場環境の整備等	58.5	51.1	+7.4
子育てにおける経済的負担の軽減	児童手当の充実、税制の在り方の検討	54.6	50.5	+4.1
妊娠・出産の支援	妊娠・出産の支援体制の充実、周産期医療体制の充実、不妊治療の支援	54.6	27.0	+27.6
子育てのための安心、安全な環境整備	良質な住宅・居住環境の確保、子育てバリアフリーの推進	51.9	41.7	+10.2
地域における子育て支援	就学前児童の教育・保育の充実、子育て支援の拠点等の整備・機能充実、家庭教育支援、放課後対策の充実、児童虐待防止等	46.0	30.7	+15.3
生命の大切さ、家庭の役割についての理解促進	乳幼児と触れ合う機会の充実、子どもを産み育てる意義等についての理解の促進	39.2	33.3	+5.9
若者の自立とたくましい子どもの育ちの推進	若者の就労支援、奨学金の充実、子どもの学びの支援等	32.1	24.8	+7.3
子どもの健康の支援	小児医療体制の充実	31.9	17.0	+14.9

出典:「少子化対策に関する特別世論調査」(内閣府/2009年1月)